

事業実績報告書

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B07	講座名	りず山の自然学校 なごやの野生ニホンリスをいっしょにまもりませんか？
記載日		団体名・企業名	守山リス研究会

〈講座全体の概要〉(300字程度)

調査活動や捕獲調査に参加し、野生のニホンリス等を調べ守る本物の「体験学習」を実施。その捕獲調査のすぐ後に、リスを観察して見たままを全員にってもらい、観察という視点を体験してもらう活動を実施。記憶した知識や情報では答えられない見たまま、触ったまま、聞いたままなど**五感で掴んだことを言葉で表現**する活動です。二日目の日程では、自然と知恵比べをすることで「発見学習」・「課題解決学習」をして、観察力を磨き、自然の知恵に驚き・**子どもたちが学ぶ気持ちを取り返す**プログラムです。これも図鑑をみるだけでは学べない、今の子ども達に求められる**事実を掴み報告しあうアクティブ・ラーニング**の学習の基礎となるこの三つの学習を体験してもらいます。



※写真1の説明

第三土曜日の捕獲調査では体重を子どもたちが測定

※写真2の説明

7項目の調査のうちのセンサーカメラの操作（SDカード交換、電池交換など）子どもたちが実施。

〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

子どもの反応は、親の日頃の考え方、接し方に強く影響をうけ、想像できます。親の指図や言うままに行動する子どもは、リスに直面しても自ら見るとい**自立した行動**がとれないことがわかってきました。そういう子どもたちは、発言することさえ親の顔をみています。また知識偏重になって図鑑を読んで覚えたことを、みたままいうことと錯覚することも次第に増えつつあります。感想文もそういうこどもは、きちんとかけない子が多く見受けられます。そんな状況だからこそ、こどもが自分のみたままを言えて、他の人の違った視点を学び、少しでも**学びたいという気持ち**や**自立してゆく体験**が必要であり、生物と知恵比べして**自分ならどう生き抜くかを考える**ことが今の子どもたちには必要であると感じます。

〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3～5点、計350字程度)

現在の知識記憶偏重に疑問をもつ親御さんの多くは、**①「子どもたちが「考える」ことをゆっくり引き出してくださった」**
②「自分の考えを「伝えること」観察する力も教えて頂きよい経験ができた。」
③「こうして人と関わりあいながら経験と知識を増やして行ってほしい。」
④「新たな発見が多くあり、普段は考えないようなことを考えることができた。」
⑤「こんなに山奥まで入れて自然一杯で大人もこんなに学べる体験は最高でした」。
⑥「見たままを伝える観察力や表現力をつけることの大切さや授業づくりのヒントが得られた。」
⑦「自然との知恵比べは面白かった。」
⑧想像して考える体験がたのしかった。という回答が多かったが、そうでない親御さんは「もっとアクティビティを増やしてほしい」という肉体的なレジャーや遊びとしての視点しかないような方々も若干みられ親御さんも「子ども達の学びたいという気持ちをどう取り戻すかを考える」ことが必要だと思いました。